

令和5年度第1回兵庫県立図書館協議会 会議録

1 日時及び場所

令和5年9月22日（金） 13:00～15:00

2 出席者

協議会委員 角本委員 川石委員 木村委員 坂下委員 津谷委員
藤井委員 三浦委員 森委員

教委事務局 社会教育課金田副課長 谷本指導主事

県立図書館 村上館長 小藤次長
小野山館長補佐兼総務課長 黒住利用サービス課長 前川ふるさと・資料課長

3 会長、副会長選出

会長に角本委員、副会長に藤井委員が選出された。

4 議事

(1) 県立図書館運営状況について

館長補佐より、「兵庫県立図書館運営状況」（資料1）、「平成30年度～令和4年度 中期運営方針の自己評価」（資料2-1）、「令和5年度 県立図書館の取組状況」（資料2-2）に基づいて説明。

(委員) 令和3年度末と令和4年度末の利用状況を比較すると、個人貸出冊数は減少しているが利用人数が増加している。要因を教えてください。

(図書館) 来館者数増加の要因は、当館で調べものをする方が増えていることが考えられます。自習室や閲覧室での勉強など、貸出冊数には影響しないが滞在型の利用者が増加しているように感じています。

(委員) SNSでの発信に力を入れているとのことだが、展示物など図書館内での撮影は可能か。

(図書館) 他の利用者が映らないように撮影することは可能です。写真をSNS等に掲載するときは、他の利用者が映らないよう、重々注意をしています。

(委員) 美術館にあるような写真撮影可能スポットを設けているのか。

(図書館) ありません。撮影可能か聞かれたら答えるようにしています。

(委員) 可能であれば、撮影可能スポットを作られたらどうか。職員に声をかけることは、一般利用者からするとハードルが高い。利用者が展示などの写真を撮り発信することで、簡単にPRができ、図書館と利用者の相互利益に繋がるのではないだろうかと思う。

(委員) 多くの市町立図書館があるなかで、県立図書館の蔵書の強みが見えにくい。どういった蔵書があるかを打ち出し、市町立図書館との蔵書の違いをわかりやすくしてほしい。

(図書館) 当館の収集方針として、市町立図書館では購入できないような専門書、学術書、高額な図書を収集対象としています。市町立図書館は身近な図書の蔵書が多いが、本館では専門的な図書を多く収集しています。また、兵庫県に関する図書も力を入れて収集しています。

(図書館) 市町立図書館では収集できない書籍や専門分野であるために利用頻度が低い書籍でも、県立図書館に1冊あれば、市町立図書館を通じてご利用いただけるような本を収集するようにしています。また市町立図書館を利用されている方が、市町立図書館には求める本が無かった場合に、市町立図書館を通じてご利用いただけるようなサービスを提供しています。一昨年より市町立図書館を通じなくても、個人の方から直接購入リクエストを受け付けるようにしています。蔵書の充実には様々な課題がありますが、利用者からの具体的なニーズに即して収集に努めてまいります。購入リクエストをいただいてから実際に購入するまでは時間差が生じてしまいますが、少しずつ収集を積み重ね蔵書を充実させていきたいと考えています。

(委員) 一般書ではなく特別な図書が多いことは知っているが、どのような書籍があるのかが分かりづらい。蔵書に関する発信をもっと増やすと、利用者は市町立との違いが分かり県立図書館を利用しやすくなり、認知度の向上にもつながるのではないかと思います。

- (図 書 館) 例えば古地図などの兵庫県に関する古い資料については順次デジタル化を進め、WEB上で閲覧していただけるようなサービスを展開しており、今後とも力を入れていきたいと思っています。また市町立図書館と県立図書館が一体となって、全体として利用者からのニーズに対応していきたいと思っています。
- (委 員) 協力貸出の内訳について、今年度は「その他」の冊数が大幅に増加している。どのような方に何冊貸し出しているのか。
- (図 書 館) 「その他」の冊数が大幅に増加している要因としては、昨年度より開始した兵庫県自治研修所へのセット貸し出しの冊数が、令和4年度と令和5年度を比較すると大幅に増加したことが考えられます。詳細な貸出冊数等は後日改めて回答させていただきます。
- (図 書 館) 自治研修所へのセット貸出は、行政分野の政策立案などに県立図書館の情報を活用できるのではないかと考え、県の政策研究に役立つような書籍をセットにして貸し出すことを昨年度から始めました。今後は県職員だけではなく市町職員の方に向けて政策立案能力の向上に資する資料等を貸し出せるようにサービスを展開していこうと考えています。
- (委 員) 県の中での存在感が増せば予算が増えるような期待もありますね。
- (委 員) 市町立図書館で県立図書館の書籍を借りることができるのか。
- (図 書 館) 可能です。
- (委 員) その仕組みについて、県民の認知度が低いのではないかと考えられる。市町立図書館のOPAC(注1)で検索をしても、県立図書館の蔵書には行き当たらない。横断検索システムを運用されているが、こちらも県民への周知が足りていないように思われる。おそらく市町立図書館が設計しているOPACの中に、県立図書館のPRを入れ込んでしまえば、市町立図書館から県立図書館の蔵書を検索できるようになるのではないかと考えられるため検討いただきたい。
- (図 書 館) 現在、兵庫県内の図書館を横断的に検索できるシステムを運用しています。利用者にはこのシステムを使っていただいていると思っていますが、そのあたりのPRが不足していると考えます。
- (委 員) まず一般の利用者は横断システムを見に行かず、地元の図書館のHP上にあるOPACを使って、蔵書を検索していると思う。市町立図書館のシステムの中に横断システムのリンクを入れ、利用者の目に触れやすくなれば利用者がさらに増えると思う。よほど図書に関心のある方でなければ横断的な検索をかけないと思うし、たとえ検索をかけたとしても、身近な図書館で県立図書館の書籍を借りられることをご存知の方は少ないように思う。このあたりをどのように広報するかが大切なので、検討いただきたい。
- (委 員) セット貸し出しについて、県立図書館でテーマ設定をして貸し出しているのか。それとも逆か。
- (図 書 館) どちらとも行っています。
- (委 員) 特殊なニーズの場合はセットを組めない(1セットの冊数を増やせない)とあったが、どういった場合か。
- (図 書 館) 例えば「羅生門と鬼」「フードバンクについて」「(和歌ではなく)百人一首」など、かなり対象が狭まってしまい1セットの冊数を増やせないことがあります。「平家物語」や「大和物語」など、物語だけといったニーズもよくありますが、こちらは50冊程度なら組むことができます。また学校側が書籍を指定して数冊を依頼してくることもあるので、セット貸し出しの件数が増えても貸出冊数が増えないことがあります。
- (委 員) 学校に調べ学習として書籍を貸し出すことはいいと思う。相手先との話し合いによるものだと思うが、おそらく「平家物語」といったトピックになると平家物語が主題となっている本が集められると思う。県立図書館には貴重な書籍が多く眠っているはず。セット貸し出しに、対象の本に加え、対象の本の隣にあるとついでに読みたいかなと思わせるような本を示すといいのではないかと思います。
- (図 書 館) ありがとうございます。今後検討させていただきます。
- (委 員) 学校から、こういったセットはありますか？と質問があれば対応しているのか。
- (図 書 館) 対応しています。どちらかという、そういった依頼の方が多い傾向にあります。
- (委 員) セット貸し出しに入っている書籍は市町立図書館と比べると、専門書寄りの図書になると思うが、市町立図書館であればジャーナリズム的なものや写真が多く入ったものになると思う。市町立図書館なら読みやすい書籍も多いと思うので、難しいとは思いますが県立図書館

と市町立図書館が連携し、セット貸し出しの中にお互いの書籍を入れることもひとつの工夫かと思う。

- (委員) 市町立図書館との連携は、今後のセット貸し出しの可能性が膨らんだ提案だと思う。
- (委員) 企画展示テーマが毎回本当に魅力的である。どのようにしてテーマを出しているのか。また以前企画展示で展示した書籍を企画展示終了後に教えていただけるのか。
- (図書館) テーマについては年末に課員から案を募り、翌年度の県政やトピック、楽しそうな話題などを話し合っていて決めています。展示の資料を後日お伝えることは可能ですが、HPに展示内容を掲載しているので、後からでも確認できるようになっています。
- (委員) 図書館として努力をしているのに、県立図書館と市町立図書館の差がわかりにくいのは問題だと思う。その差をどうやって強調したらいいのかが難しいと思っている。県立図書館は図書館のための図書館なのに、それが非常にわかりにくい。来年 50 周年を迎えるが県立図書館にしかないものをキャッチコピーとして打ち出すと、多くの人に知ってもらえるのではないかと。例えば図書館司書の実習を盛んに行っているため、「兵庫県の司書はこの図書館で生まれています。」といったキャッチコピーを考え、兵庫県立図書館を高らかに打ち立ててはいかかと思う。
- (図書館) 50 周年を前にアドバイスをありがとうございます。ホワイトボードミーティングのように、マイナス点でなくプラス点を書き出し、職員自身が気づかず当たり前と思っているものも、魅力を再度打ち出してはいかかかと思った。
- (委員) 50 周年ですから、50 年前の県立図書館周辺の状態を地図や写真を用いて現在と比較してはいかかだろうか。近隣の方が参加されるときに、利用者の方にいろいろなことを感じてもらうのではないかと。
- (委員) 教員時代に学校の総合学習や生活の時間で利用したい本を市町立図書館に借りに行っても、他の学校も同じような本を借りていることが多く、借りられないことが多くあった。しかし実際には県立図書館にも同じような、さらに専門性がありながら読みやすい本がある。市町立図書館と連携し、時期の重なるような書籍については連携して貸し出しするといった工夫をしていただければと思う。
- (委員) 「目的の書籍が市町立図書館に無いときは、県立図書館にはこういった書籍がありますよ」といった声かけがあるだけで、県立図書館の認知度が上がるように思う。
- (委員) 県立図書館から市町立図書館に対し、利用者に声かけいただけるよう連絡をしたいと思います。
- (図書館) 電子書籍サービスでは学校で利用できる資料も集めているので、電子書籍を学校で利用いただきたい。
- (委員) 電子書籍はどのように登録をするのか。
- (図書館) 利用者カードをお持ちでパスワードを設定済なら、利用カードの番号とパスワードを入れていただけたらすぐにご利用いただけます。
- (委員) 電子書籍を授業等で利用する際、多数のタブレットから同時に同じ書籍にアクセスできるのか。
- (図書館) 1つのコンテンツには1アクセスしかできないため不可能です。
- (図書館) プロジェクター等を利用いただければ大人数で閲覧していただくことは可能です。
- (委員) その利用方法は先生方もご存じなのか？
- (図書館) ご存じです。実際にどういう利用をいただいているのか、これから調査すべきであると感じています。良い事例を集め事例集を作成すれば、各学校の先生方にもさらに参考になるかと考えています。
- (委員) 楽しみですね。兵庫県の新聞のデータベースはあるのか。
- (図書館) 神戸新聞プラスのオンラインデータベースは、当館内で利用していただけるものはあります。
- (委員) 県立図書館には県内に1冊しかない地域資料などの情報資源があることを教育界などにも打ち出したらよいのではないだろうか。兵庫県の地域資料データベースを教育界・研究会でも活用し、県内随一で誇れる図書館であることを打ち出してほしい。
- (図書館) PRの際に検討させていただき、随時発信させていただきたいと思います。
- (図書館) 県立図書館の強みは兵庫県に関する資料、郷土史関連、震災関連、防災関連などの資料があるところです。この強みを広報していくために順次資料のデジタル化を進めており、来年1月からは新システムなども利用しながら今よりも良い形でデータを閲覧できるよう、

改善を図りながらPRに努めていきたいと思ひます。

- (委員) 学校、自治体、出版社など、広報対象者によって打ち出し方を変えていくと、今よりも認知度が上がるのではないだろうか。出版社などに存在感が増せばPRの機会も増え、教育界でも大学の先生方の耳に入れば、こちらもPRの機会が増えると思う。あまり手間をかけず効率的にPRできる方法があれば検討していただきたい。
- (委員) 全ての意見を受け入れるのは大変だと思う。出前講座や学校サポート講座について、良い取り組みがたくさんあるので今後ともさらに促進してほしい。子供や学校に対するサポート講座をより充実して欲しい。夏祭りについて、今年度は参加人数がかなり多く、県立図書館が認知された結果ではないかと思う。このような機会に図書館に足を向け、夏祭りやイベントだけでなく図書館の中を見てもみるきっかけになっており、非常に良いことだと思う。自治研修所へのセット貸し出しについても非常に良い取り組みだと思う。購入図書を選書会のメンバーはどんな方が教えていただきたい。
- (図書館) 館長、次長、ふるさと・資料課長、利用サービス課長ほか3名の職員です。
- (委員) 館内の職員であり、外部の意見は入らないのか。予算を持っている社会教育課の者は入らないのか。もともと規約で決まっているのか。
- (図書館) 運営はこの形式で従来から行っています。司書の資格を持つ職員が中心となって案を作りながら、全体的な方針に関しては館長、次長の意見を入れながら収集に努めています。
- (委員) 選書会のタイミングで社会教育課に予算を打診することができるのではないかと考える。ビブリオバトル高校生大会は今年度から行わないが、普及活動は具体的にはどのように行っているのか。
- (図書館) 学校サポート講座や出前講座の際に必ずビブリオバトルの紹介をしています。
- (委員) 明石公園内のパークギャラリーの展示は今年も行わないのか。
- (図書館) 枠が埋まっているため実施できません。
- (委員) 枠が埋まってなければ実施するのか。
- (図書館) 実施する予定です。
- (委員) 50周年は大きな区切りとなる。例えば有名なお寺、小さなお寺など、普段は公開していないが一番大切なもの(例えば、秘仏)は期間限定でご開帳したりしている。図書館の場合も普段は見せていない場所や貴重な資料があるのではないかと。普段見せられないものを、特別に期間限定で開架してはいかがだろうか。毎年ではなく周年行事のタイミングで展示することで、大きなPRになるのではないかと。可能か不明だが検討いただきたい。
- (図書館) 50周年に関しては予算措置も含め来年度どのようにしていくかを今まさに検討しているところです。多くの方に来ていただいて、賑わいのあるようなイベントを考えていかなければならないが、合わせて特別な企画展示をある程度の期間を設けて実施することを考えています。先ほど藤井委員、川石委員からご提案いただいたような開架や今昔の展示など、合わせて展示していけたらと思っています。
- (委員) 明石市立図書館の話題が多く出ているが、県立図書館館から提言はしているのか。
- (図書館) 当館からは提案・提言はしていません。
- (委員) 蔵書数や来館者数などの数字は、県立図書館はそれほど追わなくていいのではないかと。認知度が低いことを逆手にとって、PRの機会にしてはどうかと思う。
- (委員) 県立図書館の魅力が県民にもっと知ってもらえるといいと思う。
- (委員) 図書館の人材不足は大学や高校と連携して、大学生や高校生に何かイベントを自主的にしてもらおうなど、依頼するのもいいのではないかと。また開架になっていないものが多い人の目に触れることはいいことだと思うので、開架の機会を増やしてもいいと思う。
- (委員) 県立図書館は城と緑に囲まれている。お城の中にある図書館は他にはまず無く、全面的に打ち出すのもいいと思う。
- (委員) 数値を追いかける時代は終わっていくと思われる。多くの場面で新しい評価方法ができおり、貸し出し冊数や来館者数に一喜一憂することなく、質を追いかけていく時代になってきていると感じる。
- (委員) 各界からの意見・提案が多数出ているが、本当に真摯に受け止めていただき、可能な限り取り入れていただいていることに頭が下がる。こちらが思い付きで言っていることも、可能な限り反映されている。無理なことを言うこともあるが、一生懸命受け止めていただき、反映していただきたい。
- (委員) 高齢者施設は増加している。そこに働きかけると、需要が増えるのではないかと。個人では

なく施設に対してセット貸し出しをするなどできることはあると思う。今すぐできることではないが、アンテナを立てていただき、何かできることがないか考えてほしい。

(図書館) 病院の病棟や刑務所など人の出入りが限定的な施設は、施設側も管理がしやすいので、セット貸出の需要はあると思います。今後働きかけていくことを前提に、セット貸出のできそうな対象施設や貸出の仕方などを検討したい。

(注1) OPAC (Online Public Access catalog) とは、図書館や資料館などの利用者が使えるよう整備された、オンライン蔵書目録